



400年の時を越え 受け継ぐ伊達政宗の夢

石巻市渡波地区の海辺に、全長約55メートルの帆船が係留されている。400年前、仙台藩主・伊達政宗の命により建造されたサン・ファン・パウティスタ号を、忠実に復元したものだ。政宗は何のためにこの巨大な船を造ったのだろうか。

慶長18年（1613）、文倉帯長ら慶長遣欧使節団を乗せた帆船は石巻・月洞を出帆、太平洋を横断した。目的は、スペイン国王およびローマ教皇に、直接貿易と宣教師派遣の要請を行なうこと。苦難の末、彼らはみごと高見を果たす。長年、この一大事業は、藩の繁栄をはかる一方、軍備増強をもくろむ政宗の野望によるものと考えられていた。ところが東日本大震災を経て、解釈は大きく変わる。

震災前は注目されていなかったが、帆船建造の2年前（慶長16年・1611）に三陸を襲った津波があった。各地の書物に残る津波の規模があまりにすさまじく、信じよう性が疑われていたが、震災後の調査で、大津波が実際に起きていたことが明らかになる。同時に、政宗が被災後ごく短期間で使節派遣を決意していることから、「大規模造船と海外交易は民衆のための復興事業」という説がクローズアップされることになったのだ。

「使節団は現地での交渉には失敗しました。けれども、一連の事業が民衆を励ましたおかげで復興へと大きく踏み出し、現在の宮城の基礎を築いたことは間違いないでしょう。それが政宗の夢だったのでしょ」

こう語るのは、復元船がある使節船ミュージアム学芸員の中澤希望さん。「先人の魂は勇気を与えてくれます。私たちもこそ、未来に誇れるよう頑張りたいと思います」



巡礼地と千年物語を募集中！

巡礼地とその場所にまつわる千年先まで語り継ぎたい物語を募集しています。

一般社団法人東北お遍路プロジェクト
<http://cocomichi.jp/>

- 東日本大震災の津波とその後の暴風で激しく被害を受けた復元船
- 震災から2年8ヵ月後（2013年）、市民も待ちわびた再開館。2日間で9400人が来館する賑わいとなった。（現在は船の維持稼働のための船内・エントランスのみ立ち入り可）
- 使節船ミュージアムと慶長使節展示室内、各声優陣つきで、サン・ファン・パウティスタ号号建造時の様子をご覧ください
- 学芸員・中澤希望さん

